

中国語の色彩語「白」の否定副詞的用法に関する研究

郭 麗

要旨

本稿では、中国語の色彩語「白」が副詞として使用される際の意味用法を考察した。考察の結果、まず、形態の面には、「白」は同じ意味を持つ単音節の「白」と二音節の「白白」があり、単音節の使用頻度は高く、約二音節の4倍であった。また、「白」は単音節の動詞を修飾する傾向があり、「白白」が修飾する動詞は二音節の傾向が強いと分かった。そして、意味の面には、「白」と「白白」は行為の結果、または行為の前提条件を否定するという二つの意味を表すが、両者とも話し手が行為の結果を否定する際によく使用されるという傾向が見られた。最後に、「白白」と異なり、「白」は三つの定型構文があるが、定型構文上の「白」は機能が異なると分かった。

【キーワード：否定副詞「白」/ 統語的特徴 / 意味的特徴 / 定型構文 / 使用傾向】

1. はじめに

色彩語に関してはこれまで多く研究されてきており、中国語における色彩語は形容詞、名詞、動詞の用法のものが主要である。例外的な色彩語「白 (bai2)」¹には他の色彩語と異なり、副詞的な用法がある。「白」は本来、物の外観が白いこと、或いは無色²であること表すが、語義の発展に従い、副詞として使われる際に、「白」の色彩上の意味が失われ、否定を表す否定辞として文法化されてきた。その文法化過程を晩唐時代ごろまで遡ることができることを張 (2014: 252) が指摘している。

中国語では、否定を表す表現は大きく2種類に分けられる。一つ目は命題の否定 (statement negation) である。命題の否定でよく使用する副詞には「不 (bu4)」、「没 (mei4)」、「无 (wu2)」、「非 (fei2)」、「别 (bie2)」などがある。もう一つは前提条件の否定 (presupposition negation) であり、全部では「白 (bai2)」、「空 (kong1)」、「瞎 (xia1)」、「干 (gan1)」、「徒 tu2」、「虚 xu1」、「枉 wang3」の7つがある。この2種類の否定副詞の相違について、以下の例文で示す。

¹ 中国語は「ピンイン表記」を付ける際に、アルファベットはピンインであり、数字は声調であることを表す。

² 白色は無色ともいうが、張 (2014:250) は「白」の原義にも否定の意味が含まれているという。

(1)

- a. 他 不 吃 饭。 b. 他 没 吃 饭。
 彼 (否定) 食べる ご飯 彼 (否定) 食べる ご飯
 (彼はご飯を食べない。) (彼はご飯を食べなかった。)
- c. 他 白 吃 饭 了, 完全 没有 力气。
 彼 (否定) 食べる ご飯 (完了)、全然 (否定) 力。
 (彼は無駄にご飯を食べたが、全然力が湧かなかった。)
- d. 他 干 等 了 一天, 最终 她 没 来。
 彼 (否定) 待つ (完了) 一日、最終 彼女 (否定) 来る
 (彼は一日待ったが、最終的に彼女は来なかった。)

例文 a と b の否定副詞「不」と「没」は、「命題の否定」に属す副詞であり、例文 c と d の「白」と「干」は「前提条件の否定」に属す副詞である。修飾している動詞を見てみると、a の「不」と b の「没」は動作「吃」を否定しており、「吃」という動作が完了していないことを表している。一方、例文 c と d では、「白」と「干」がそれぞれ修飾している動作「吃」と「等」はすでに完了しているが、「白」と「干」が否定しているのは動作の結果である。つまり、例文 c では「彼にご飯を食べたから、力があるはずなのに、力が湧かなかった」、d では「彼は一日も待ったが、彼女は来るはずなのに、来なかった」ことを表している。

「白」は色彩語の中で、唯一の否定機能を持つ色彩語である。また、否定を表す他の副詞と異なり、「白」の副詞的な形態には、単音節の「白」とその疊語形式の「白白」の二つがあり、例としてはそれぞれ「白给(ただであげる)」、「白白地给(ただであげる)」などがある。この二つの形態の否定辞は、意味の上ではほぼ同一である。さらに、中国語には「白」と「白白」のように基本形と疊語形で同じ意味を表す副詞が多く、「每(mei3)」と「每每」、「仅 jin3」と「仅仅」、「常 chang2」と「常常」などが例に挙げられる。しかし、このような多くの副詞の中で、「白」と「白白」ような否定の含意を持つものは見当たらない。「白」と「白白」の副詞的な用法は現代中国語で多用され、その意味用法と機能は、否定副詞の中で重要な存在であると張(2014: 280)が指摘した。

そして、中国語の各種辞書では、副詞「白」と「白白」は二つの意味を表す。すなわち、「没有效果, 徒劳(効果がない、無駄)」と「无代价, 无报偿(無料、ただで)」である。張(2014)などの先行研究は、前者を A 義、後者を B 義と称した。両者の意味的な違いは、A 義は「代価を払ったが、利益が得られない」ことを表し、B 義は「利益を得たが、代価を払ってない」ことを表すと言われる。このように、「白」は二つの対義的な意味を持つと言える。例えば、(2) のように、a では「薬を飲む」ことは「代価」であり、「咳が治る」ことは「利益」であるが、「白」は「代価を払ったが、利益が得られない」ことを表すため、A 義だと考えられる。b では「お金を払う」ことは「代価」であり、「ご飯を食べる」ことは「利益」であると見なされるため、「白」は「代価を払わずに利益を得た」ことを表す B 義であると考えられる。

(2)

- a. 他 白 吃 了 三服 药, 咳嗽 还 没有 好。
 彼 (否定) 飲む (完了) 三回 薬、咳 まだ (否定) 治る
 (彼は無駄に薬を三回飲んだ。咳がまだ治らなかった。)
- b. 他 白 吃 了 一 顿 饭, 用 的 是 我 的 积 分 返 点。
 彼 (否定) 食べる (完了) 一回 ご飯、使う のは 私 の 会員ポイント
 (彼は私の会員ポイントを使い、お金を払わずにご飯を食べた。)

(袁2014による例文)

これまでの「白」と「白白」に関する研究では、A義とB義の違いの考察が主な焦点であった(張2014、袁2014など)。しかし、「白」と「白白」はどのような動詞と結びつく時にA義を表し、どのような場合にB義を表すのか、そして、二つの意義の使用傾向については明確ではない。ここで、「白」と「白白」の使用傾向を明らかにし、統語構造の選好性を客観的に示すため、本稿では、主に『日中対訳コーパス』(第一版)、『CCLコーパス』、『BCCコーパス』の三つのコーパスから、大規模なデータに基づいて調査した。

2. 先行研究と本稿の立場

2.1 先行研究

中国語の副詞「白」「白白」に関する先行研究は多くない。日本での先行研究は見当たらないが、中国における研究では張(1993、2003、2014)、袁(2014)、曾・袁(2018)などが挙げられる。

張(2014: 239)は、前提条件の否定における否定の対象は、命題そのものではなく、話し手と聞き手の共通認識であるとした。例えば、

(3)

- a. 张三 学 了 几 年 钢琴。
 張三 学ぶ (完了) 何年間 ピアノ
 (張三は何年間もピアノを学んだ。)
- b. 张三 学 了 几 年 钢琴, 但 至今 仍然 一窍不通。
 張三 学ぶ (完了) 何年間 ピアノ、しかし 今ま だ も 身に付かない
 (張三は何年間もピアノを学んだが、今までも身に付かなかった。)
- c. 张三 白 学 了 几 年 钢琴。
 張三 (否定) 学ぶ (完了) 何年間 ピアノ
 (張三は無駄に何年間ピアノを学んだ。)

(張2014: 239による例文)

通常、努力をすると、良い結果が出ると考えるのが一般的である。話し手が例文(3a)のように言うと、聞き手は「張三はピアノができる」と推測できる。しかし、実際には、我々の推測と異なる場合も多々あり、時間をかけて何かをしても、期待した結果が出ないこともよくある。例えば(3b)「張三は数年間もピアノを学んだが、ピアノができるはずなのに、全くできない」のような、聞き手の推測と異なる状況を複合的な文で表すことができる。一方、(3c)のような、よりシンプルな表現方法も存在する。動詞「学」の前に副詞「白」を加えることで、聞き手が「張三はピアノができない或いは上手ではない」と推測できる。(3b)と(3c)は同じ意味を表しているが、(3b)と比べて(3c)の方が、文が短くより簡潔である。

「白」「白白」の二つの意味の違いについて、張(2014)は、私たちの行動の損得の判断基準は、主に代価と利益の比率に基づいているという。代価を払えば利益を得ることができ、逆に利益を得れば代価を払うことができるというのが普通である。しかし、客観的または主観的な理由により、対価と利益の間には常にバランスのとれた同等性があるわけではない。時には、対価を支払ったとしても、それに見合った利益が得られないことがある。これはA義である。時には利益を得られた場合でも、それに見合った対価を払っていないということもある。これはB義に該当する。言い換えれば、「白」「白白」はA義を表す際には「利益を得る」ことを否定し、B義を表す際には「対価を払う」ことを否定していると言える。

また、袁(2014: 407)は、「白」は語義的否定を行うものではなく、語用的否定をするとし、否定対象は命題や修飾している述語ではなく、命題を成立するための適合性条件(felicity conditions)であると指摘している。語義的否定では命題の語義が否定された場合、その命題の真理値(truth value)が変わる。一方、語用的否定では命題の適切条件が否定されても命題の真理値が変わらない。以下の例文においては、

(4)

a. 他 吃 饭 了。

彼 食べる ご飯 (完了)

(彼はご飯を食べた。)

b. 他 没 吃 饭。

彼 (否定) 食べる ご飯

(彼はご飯を食べなかった。)

c. 他 白 吃 了 一 顿 饭, 一 分 钱 没 花。

彼 (否定) 食べる (完了) 一回 ご飯、 1円 (否定) 払う

(彼はタダでご飯を食べたが、1円も払わなかった。)

d. 他 白 吃 了 一 顿 饭, 一 点 力 气 都 没 有。

彼 (否定) 食べる (完了) 一回 ご飯、 少し 力 も (否定)

(彼は無駄にご飯を食べた、全然力が湧かなかった。)

(曾・袁: 2018による例文)

命題 a に対して、b は否定辞「没 (mei2)」を加えて、命題 a の「吃 (食べる)」ことを否定し、その真理値が変化したため、b は語義の否定となる。c と d は共に否定副詞「白」を加えたもので、命題 a の「食べる」ことは否定しておらず、その命題の真理値が不変であるため、両方とも語用的否定という。それぞれの「白」が否定したのは「食べること」の前提条件と結果である。c では前提条件の「お金を払う」ことを否定し、d では結果の「ご飯を食べてから力を持つはず」ことを否定していることを曾・袁 (2018) が指摘している。

2.2 本稿の立場

「白」「白白」は中国語の否定副詞で重要な位置を占めているが、これまで「白」「白白」に関する先行研究は多くなく、その大部分は「白」と他の否定を表す副詞との違い、或いは A 義と B 義の意味上の違いに関する研究である。大量のコーパスデータを使用して「白」「白白」の使用傾向を検討した研究は見当たらない。

本稿は、「白」「白白」の使用実態を調査することにより、その統語構造の選好性を客観的に示すことができると考える。本稿では、中国語の色彩語「白」が否定副詞として使われる際の統語構造の選好性と意味の使用傾向を明らかにするために、その形態「白」「白白」の使用頻度、共起する動詞の特徴、二つの意義の使用傾向を考察する。具体的には、主に『日中対訳コーパス』(第一版)、『CCL コーパス』と『BCC コーパス』を用いてデータを抽出して分析を行う。なお、本稿の第3節「考察」は三つの部分によって構成し、3.1では中国語の副詞「白」「白白」の使用頻度を考察する上、それぞれの共起する動詞の統語的特徴を明確にする。3.2では「白」「白白」の二つの意味の使用傾向を明らかにする。3.3では「白」に関する三つの定型構文を考察する。続く第4節では本稿のまとめを述べる。

3. 考察

3.1 「白」と「白白」の統語的特徴

『日中対訳コーパス』(第一版)で、候補語「白」「白白」を指定して検索を行った。出力結果をダウンロードした上で、手作業で「明白」「明明白白」などの対象外の用語を除外して、「白」「白白」の副詞的な用法のみを選出した。出現頻度は副詞「白」は146回、「白白」は36回であった。それぞれが修飾する動詞を以下の表1に示す。(括弧内の数字は出現頻度である)。

表1. 「白」「白白」が修飾する動詞の使用実態

形態	共起動詞 (頻度)
白 (146)	吃 (13)、干 (12)、费 (11)、搭 (6)、活 (5)、要 (5)、跑 (5)、流 (4)、饶 (4)、给 (3)、来 (3)、送 (3)、说 (3)、用 (2)、走 (2)、捡 (2)、花 (2)、忙 (2)、耗 (2)、住 (2)、教 (2)、操心 (2)、受累 (2)、养活 (2)、当差 (2)、拉套 (2)、地 (看) (2 (1))、读、念、出、磨、赔、容、留、收、拿、垫、拾、叫、去、碰、闹、烧、闯、当、跟、撞、化、挨、过、学、等、扰、丢、落、弄、添乱、辛苦、扛活、牺牲、耽误、糟蹋、得来、坑害、踩咕、卖命、修理、不 V 白不 V

白白 (36)	过去 (3)、地等待 (2)、地浪费、地耗费、地失去、丧失、抢去、的抢去、赔上、的赔出去、的耽误、地燃烧、的愚蠢和痛苦、地任人播弄、送给、送往、送死、的糟蹋、的看着、的加快、得到、拿走、奉送、去、地哭了、地了、地烂、地拣了、卖了、给、地喊、地要、的“泡”
------------	---

表1は、副詞「白」と「白白」の使用頻度の具体的な差異を示している。『日中対訳コーパス』（第一版）から抽出したデータでは、単音節の「白」の副詞的な用法の数は二音節「白白」の約4倍であった。また、その修飾する動詞を見ると、単音節「白」の場合では、単音節の動詞と共起する場合が多かった。二音節の動詞も見つかったが、使用頻度が高いのは単音節の動詞である。その一方、二音節の「白白」については、その修飾する動詞は二音節の方が多く、単音節の動詞を修飾する場合のほとんどで、動詞の前に助詞「的」「地」が付け加えられていた。

先行研究の張（2014: 283）は、「白」と「白白」の差異として、「白白」が単音節の動詞を修飾できないことを述べた。しかし、表1には、張（2014）の考察と異なる例が見られた。つまり、「白白」は、直接「去（行く）」「给（あげる）」の二つの単音節の動詞と共起して用いられていた。例を（5）に挙げる。

(5)

- a. 害得 他妈 白白 去 商店 转悠 了 一下午, (後略)
 气的毒 彼の母親 (否定) 行く お店 回る (完了) 午後
 (気の毒なのは彼の母親は無駄に午後いっぱい時間をかけてお店を回って行った。)³
- b. 可是, 将 亲生的 孩子 白白 给 人, (後略)
 しかし、を 自分で産む 子供 (否定) あげる 他人
 (しかし、腹を痛めた子をタダで他人にあげるなんて、)

(『日中対訳コーパス』による原文)

また、ほかの「白白」と共起する単音節の動詞には、助詞「的」「地」が付いている例が少なくなかった。張（2014）は「白白」に助詞「的」「地」を付けることは任意であると述べており、以下の(6)のように、「白白」の後ろにつく助詞「地」と「的」を取り除いても、文は成立する。

(6)

- a. 她 越高兴越 觉得 自己 不是 白白地 喊 空口号。
 a. 她 越高兴越 觉得 自己 不是 白白 喊 空口号。
 彼女 喜びが湧けば湧くほど 思う 自分 (否定) (否定) 唱える スローガン
 (彼女は喜びが湧けば湧くほど、自分は無駄にスローガンを唱えるではないと思った。)

³ 本稿では、『日中対訳コーパス』（第一版）から引用した例文の訳文は、コーパスに記載された訳文に基づき、原義を変わずに多少修正を加えたものである。

- b. 他 不能 就这么 白白的 “泡” 一天。
 b₁. 他 不能 就这么 白白 “泡” 一天。
 彼 できない こんなふう に (否定) 潰す 一日
 (彼はこんなふうにまる一日潰してしまってはできない。)

(『日中対訳コーパス』による原文)

原文 a の「白白地喊」を a₁ の「白白喊」、b の「白白的“泡”」を b₁ 「白白“泡”」にしても、文は問題なく成立する。a₁ と b₁ の動詞も単音節であるため、「白白」も単音節の動詞を直接に結びつけることが出来ることが分かる。

さらに、「白白」には助詞「的」「地」を付けることが任意である一方、単音節の「白」の後ろには助詞「的」「地」を付けることができないと、張 (2014: 283) は述べた。しかし、『日中対訳コーパス』からのデータで、以下の反例が見つかった。(7) では、単音節の「白」が動詞の「看(見る)」を修飾する際に、助詞の「地」が付加されている。

- (7) 双喜 说, “晚上 看客 少, 铁头老生 也 懈了, 谁
 双喜 言う, 「夜 観客 少ない, 鉄頭の老生 も 力を抜いた, 誰が
 肯 显本领 给 白地 看 呢?”
 たい 十八番 あげる (否定) 見る か

(双喜は言った、「夜は観客が少ないもんだから、鉄頭の老生も力を抜いたんだよ、誰が十八番を無駄に見せたいのか」)

(『日中対訳コーパス』による原文)

最後に、副詞「白」と「白白」の表現効果については、同じ動詞を使用した例文 (8) を見ていくと、「白白的耽误」に比して、「白耽误」の方はより口語的である。つまり、単音節の「白」は二音節の「白白」と比べてより口語的であると思われる。

- (8)
 a. 把 一个 女孩儿 白 耽误 了!
 を 一人 女の子 (否定) 損なう (完了)
 (一人の女の子を損なってしまった。)
 b. 我 考虑了 四五天, 我 不能 白白的 耽误 人家。
 僕 考えた 四五日, 僕 できない (否定) 損なう 人様
 (お母さん、僕は四、五日考えたが、人様をみすみすダメにすることはできません。)

(『日中対訳コーパス』による原文)

この節では、『日中対訳コーパス』(第一版) から副詞「白」と「白白」の統語的特徴についての

考察を行った。全体的に見れば、単音節の「白」は146回が出現しており、そのうち、125回は同じ単音節の動詞と結びついた。およそ全体の86%を占めたが、二音節の動詞は僅か21回であり、全体の14%を占めるに留まった。一方、二音節の「白白」は36回出現したが、そのうち、二音節の動詞と結びつくのは26回であり、およそ全体の72%を占めた。また、コーパスの結果から見て取れるのは、単音節の「白」には助詞「的」「地」が付く場合は少ないが、文法上付けることができないまでとは言えないことである。さらに、「白白」は二音節の動詞と結びつく割合が高かったが、先行研究と異なる反例として、単音節の動詞を修飾する例が見つかった。

3.2 「白+V」と「白白+V」の意味的特徴

第1節で述べたように、副詞「白」「白白」の意味は主に二つある。一つ目は、A義の「没有效果, 徒劳 (効果がない、無駄)」であり、もう一つはB義の「无代价, 无报偿 (無料、ただで)」である。袁 (2014) によると、A義を表す際には、「白」は「利益を得る」ことを否定し、B義を表す際には、「白」は「代価を払う」ことを否定する。この節では、「白」「白白」がそれぞれどのような動詞と共に共起する際にA義を表し、どのような動詞と共に共起する際にB義を表すのかを検討するうえ、A義とB義の使用傾向について検討する。

まず、単音節の「白」について、『日中対訳コーパス』から抽出した146個のデータを用い、個々の「白」の意義を分析した。分析の方法としては、「白」が修飾する動詞の動作主が「代価を払ったが利益が得られなかった」ことをA義、「利益は得たが代価を払わなかった」ことをB義に分類した。その結果は、146例のうち、A義は113個であり、全体の77%を占めた一方、B義は33個であり、全体の23%を占めた。A義の割合はB義の3倍以上であった (表2)。

表2 「白」の意味の使用傾向

意義	共起動詞 (頻度)
A 義 (113)	干 (12)、费 (11)、搭 (6)、活 (5)、跑 (5)、流 (4)、饶 (4)、给 (2)、来 (3)、送 (3)、说 (3)、走 (2)、花 (2)、忙 (2)、耗 (2)、教 (2)、操心 (2)、受累 (2)、养活 (2)、当差 (2)、拉套 (2)、地 (看) (2 (1))、读、念、出、磨、赔、容、留、垫、叫、去、碰、闹、烧、闯、当、跟、撞、化、挨、过、学、等、丢、添乱、辛苦、扛活、牺牲、耽误、糟蹋、坑害、卖命、修理、不V白不V
B 義 (33)	吃 (13)、要 (5)、用 (2)、捡 (2)、住 (2)、给、收、拿、扰、落、弄、拾、得来、踩咕

また、「白」はB義を表す際、その修飾する動詞にはもともと「何かを獲得した」意味が含まれ、話し手の思いがけない幸いの気持ちも表している。一方、A義を表す際には、その修飾する動詞の種類はより複雑であり、その多くには動作主が「何かをあげる」或いは「何かをしてあげた」という意味が含まれ、話し手の残念や怒りなどの気持ちも表している。

(9)

a. 那 全 是 白 干, 财主 是 不会 对 穷人 使 好心眼的。
 それ 全部 は (否定) 働き、地主 は (否定) に 貧乏人 する 良い心根
 (それは全部無駄働きじゃないか、地主が貧乏人のために思う心根がないから。)

b. (前略) 借着 如 白 捡, 借到手 便顺手 花去了。
 借りる のように (否定) 拾う、手に届く すぐ 使ってしまった
 (借りたお金は拾った物のように、手に届いたら間もなく使ってしまった。)

(『日中対訳コーパス』による原文)

例文 a の「干(gan4)」では「地主に働いてあげた」ことであり、例文 b の「捡(jian3)」は「拾う」の意味であり、「獲得する」含意が含まれている。

一方、二音節の「白白」は36回出現したが、単音節の「白」と同じ方法で、「白白」の意味で、動作主が代価を払ったが利益が得られなかったことを A 義、利益は得たが代価を払わなかったことを B 義に分類した。その結果、36個のうち、A 義は30個であり、全体の約83%を占めた。B 義は6個であり、全体の約17%を占めた。

表3 「白白」の意味の使用傾向

意義	共起動詞 (頻度)
A 義 (30)	过去 (3)、地等待 (2)、地浪费、地耗费、地失去、丧失、赔上、的赔出去、地燃烧、的愚蠢和痛苦、地任人播弄、送给、送往、送死、的糟蹋、的看着、的加快、奉送、的耽误、去、地哭、地了、地烂、卖了、给、地喊、的“泡”
B 義 (6)	地拣了、地要、抢去、的抢去、的得到、拿走

以上の考察から、中国語の副詞「白」と「白白」の二つの意味の違いを纏めると、A 義は行為の結果を否定することであるが、B 義は行為の前提条件を否定することである。『日中対訳コーパス』から抽出したデータには、「白」「白白」が全部で182例が含まれていた。その中で、A 義を表すのは143例であり、約79%を占めたが、B 義を表すのは39例のみであり、約21%を占めた。A 義の使用頻度は約 B 義の4倍であると分かる。この結果は、「白」「白白」が、話し手が動作主の行為の結果を否定するために使用されるという傾向を示している。

3.3 「白」に関する定型構文

単音節の「白」は二音節の「白白」とは異なり、定型的な構文における否定副詞としてもよく用いられる。本節では「白」の三つの定型的構文「不 V 白不 V」、「V 了也白 V」、「白 V 谁不 V」についての調査結果を述べる。この三つの定型構文は『日中対訳コーパス』(第一版)ではあまり出現していなかったため、本節では北京大学が開発した『CCL コーパス』(ネット版)を使用し、データを抽出して考察を行う。

3.3.1 「不V白不V」構文について

「不V白不V」構文は「不V」と「白不V」の二つ部分から構成されている。この構文では三つの否定辞があり、「不」と「白」も否定副詞である。出てきた二つの動詞「V」は同じ動詞である。「不」はその後に続く動詞を否定し、命題の否定となる。例えば、例文(10)のように、「不吃白不吃」は「吃」と同等する。つまり、「不V白不V = V」である。また、「不V白不V」構文の動詞は以下の表4に示す。

- (10) 但 主人的 盛情难却, 所以 也就 抱
 しかし 主人の 好意を断ることができず、だから も 抱く
 “不吃 白 不吃” 的 宗旨 而 来。
 食べない (否定) 食べない の 考え で きた
 (しかし、主人側の好意をむげに断ることもできず、「食べるだけで食べてやれ」という考え
 できた。) (『日中対訳コーパス』による原文)

表4 「不V白不V」構文

構文	共起動詞 (47)
不V白不V	吃 (23)、要 (22)、拿 (15)、花 (11)、用 (9)、说 (7)、干 (5)、看 (5)、赚 (4)、借 (4)、偷 (3)、问 (3)、买 (3)、收 (3)、坐 (3)、占 (3)、上 (2)、住 (2)、打 (2)、喝 (2)、提 (2)、来 (2)、娶、捕、骗、措、贷、抄、听、涨、吹、欠、贪、下、玩、敲、戴、溜、播、赖、宰、去、带、领、读、利用、享受

表4から見ると、「不V白不V」構文の生産性が高いと見られる。その動詞はほとんど単音節の動詞である。二音節の動詞は「利用」と「享受」の二つしか見られなかった。「不V白不V」構文は、単音節の動詞と結びつく傾向が見られる。

また、「不V白不V」構文は、併用される動詞の意味によって二種類に分けられる。一つ目の分類は、動詞が表す行為をして何かを獲得することができるというものである。例えば、「吃(食べる)」「要(もらう)」「拿(取る)」「用(使う)」「赚(稼ぐ)」「偷(盗難する)」などの「何かを獲得する」意味が含まれている動詞が挙げられる。もう一つは、動詞が表す行為に利益獲得・損失が伴わないものである。例えば、「说(言う)」「干(する)」「听(聴く)」などのような動詞が挙げられる。このように、「不V白不V」構文では、「白」はA義を表すが、構文で使用される動詞は前節のB義を表す「白+動詞」パターンの動詞と同じ特徴を持つと考えられる。

3.4.2 「V了也白V」構文について

「V了也白V」構文は、「動詞+了」と「也白+動詞」の二つの部分から成り、「何かをしたとしても無駄である」という意味を表す。構文中の「白」は動作の結果を否定するため、その意義はA義である。詳しく例を挙げると、(11)のように、「去了也白去」は「行っても無駄だ」を意味してい

る。『CCL コーパス』で見られた「V了也白V」構文の動詞を表5に示す。

- (11) 下雨 中山公园 就 不好看了, 也 照 不成 相,
 雨が降る 中山公園 は 見栄えが悪くなり、も 撮る できない 写真、
去了 也 白 去。
 行った も (否定) 行く (『CCL コーパス』)
 (中山公園は雨が降ると見栄えが悪くなり、写真も撮れない、行っても無駄になる。)

表5 「V了也白V」構文

構文	共起動詞 (49)
V了也白V	说 (18)、改 (4)、拿 (3)、去 (3)、来 (3)、吃 (2)、领 (2)、问 (2)、考、种、印、做、挑、提、装、想、看、死、偷、骗

『CCL コーパス』では、「V了也白V」構文の動詞は、全て単音節の動詞である。前述したように、「V了也白V」構文の「白」はA義であるが、その共起する動詞を見ると、表2で示したB義の共起する動詞と同じものがある。例えば「吃」「拿」が挙げられる。詳しく例を見ると、

- (12)
 a. 我 要用 干活的 人, 不能用 白 拿 钱 的。
 私 欲しい 働く 人、 いない (否定) 取る お金 の
 (私が欲しいのは、よく働き人で、お金のただ取る人はいない。)
 b. 不 拿 白 不 拿, 拿 了 也 白 拿。
 (否定) 取る (否定) (否定) 取る、取る (完了) も (否定) 取る
 (取らなくてももったいないが、取ったとしても意味がない。)

(『CCL コーパス』)

aとbも「白拿(bai2na2)」であるが、aでは「ただ取る」の意味でB義になるが、bは「拿了也白拿」構文で、「白」は「無駄」の意味であるため、A義になる。このように、「白+動詞」のパターンの「白」はB義であった場合にしても、同じ動詞を「V了也白V」構文に当て嵌めると、「白」はA義になると分かる。

3.4.3 「白V谁不V」構文について

「白V谁不V」構文は、「白+動詞」と「谁不+動詞」の二つの部分から構成され、全体的には「どうせタダで何かをするから、しない人はいない」を意味する。この構文の「白」はB義である。例えば、

(13) 打 电话 不要 钱, 白 打 谁 不 打。

する 電話 (否定) お金、(否定) する だれ (否定) する

(電話をすることはお金はかからないため、ただでできるならしない人はいない。)

(『BCC コーパス』による原文)

「白V誰不V」構文の出現頻度は、「不V白不V」構文と「V了也白V」構文と比べて低く、『CCLコーパス』では3例しか出てこなかった。この3例のうち、2例は「白比誰不比」、1例は「白吃誰不吃」である。

このように、単音節の「白」と二音節の「白白」のもう一つの相違点として、「白」は定型構文にも用いられるが、「白白」に関する定型構文は見あたらなかった。また、「白」の定型構文における意味は異なり、「不V白不V」構文と「V了也白V」構文ではどのような動詞を入れても、「白」はA義を表すが、同じ動詞を「白+動詞」のパターンに入れると、「白」はB義である。一方、「白V誰不V」構文では、「白」はB義を表す。

4. おわりに

本稿では、現代中国語における色彩語「白」の副詞として使われる際の意味用法を考察した。先行研究では、主に「白」と「白白」の二つの意味の差異を考察した。つまり、「白」「白白」のA義「没有效果, 徒劳 (効果がない、無駄)」とB義の「无代价, 无报偿 (無料、ただで)」の差異は、前者は行為の結果を否定し、後者は行為の前提条件を否定することである。

本稿では先行研究に基づき、主に「白」「白白」の統語的特徴、およびA義とB義の使用傾向を考察した。主要な結論としては、まず「白」「白白」は主に使用頻度とそれに結びつく動詞に差異があるが、両方とも動作の結果を否定するA義を使用する傾向が見られた。また、「白」「白白」の二つの意義の差異について、「白」「白白」の意味の選択は、その後ろにつく動詞と深く関連している。A義を表す時に、その修飾する動詞は元々「何かをあげる」という含意があり、話し手の残念や怒りなどの気持ちを表している。一方、B義を表す時に、その修飾する動詞は元来、「何かを獲得する」含意があるが、話し手の思いがけない幸いの気持ちを表している。

結論を詳述すると、まず、単音節の「白」とその豊語形式の「白白」の差異点である。一つ目は使用頻度であり、「白」と「白白」は使用頻度に明らかな差異が存在しているが、「白」の出現頻度は「白白」の約4倍である。二つ目は「白」「白白」が結びつく動詞であり、「白」は単音節の動詞を修飾する傾向があるが、「白白」が修飾する動詞は二音節の方が多いことが分かった。三つ目は、「白白」と比べて、「白」の方が口語的である。四つ目は「白」は定型構文にもよく使われるが、「白白」は定型構文には使用できないことが判明した。

それからは、「白」と「白白」の共通点である。両者のA義とB義の使用傾向に関しては、次の二つの点から考察した。一つ目は二つの意味の使用傾向であるが、「白」「白白」両方も、話し手が動作主の行為の結果を否定する際に、頻繁に使用される傾向が見られた。二つ目はそれぞれの共起

する動詞である。「白」「白白」両方とも、B義を表す際に、その修飾する動詞には本来、「動作主が何かを獲得する」の意味がある。一方、A義を表す際には、その修飾する動詞は「動作主が何かをしてあげる」という意味が含まれている。

最後に、「白」に関する定型構文の頻度と意味である。頻度に関しては、「不V白不V」構文の方は最も頻度が高く、生産性が高いと見られる。意味用法に関しては、「白V谁不V」構文はどのような動詞を使用しても、「白」はB義を表す。「不V白不V」構文と「V了也白V」構文の「白」はどのような動詞を使用してもA義を表す。しかし、その多くの動詞を「白+動詞」のパターンに当て嵌めると、「白」はB義を表す。言い換えれば、「白+動詞」のパターンで「白」はB義であっても、同じ動詞を「不V白不V」構文と「V了也白V」に当て嵌めると、「白」は変わらずにA義となる。

本稿は大規模なコーパスデータを使用し、色彩語「白」の副詞としての使用実態を調査し、否定副詞「白」「白白」の統語構造の選好性と意味の使用傾向を具体的な数字で客観的に示した。この結果は、中国語の副詞、特に「前提条件の否定副詞」の研究をする上で有益であると考えられる。今後の課題としては、「白」はどのように、色を表す色彩語から否定を表す副詞になってきたのか、その文法化の過程を詳しく考察したい。

付記

本稿は、中国安徽省哲学社会科学プロジェクト「動態系統理論視覚下日語写作在線協作学習效能研究」(課題番号: AHSKQ2021D183)の成果の一部である。本稿は査読の先生から貴重なコメントを頂き、同研究室の樺木さんが何度もネイティブチェックをして頂き、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

参考文献

【日本語文献】

- 西川和男 (2014) 「否定副詞‘不’と‘没(有)’の教授法について」『関西大学外国語学部紀要』(11), 1-14
 山崎雅人 (2021) 「中国語の視覚動詞「看」の文法化について」『日本認知言語学会論文集』(21), 325-337
 陳建明 (2018) 「日本語と中国語の程度副詞における主観性の相違について: 「いっそう」「いちだんと」と「越发」を中心に」『研究会報告』(43), 77-86
 劉愛群 (2009) 「中国語否定副詞の習得過程における「インプット処理指導」の介入」『立命館言語文化研究』21 (2), 151-167
 盧濤 (2005) 「汉语副词使用错误分析」『言語文化研究』(31), 159-185

【中国語文献】

- 張誼生 (2014) 『現代漢語副詞研究』商務印書館
 張誼生 (1993) 「現代汉语副词“白”、“白白”」『淮北煤师院学报』(1), 113-12+7
 曾静涵・袁毓林 (2019) 「隐性否定副词“白”的功能扩散、语义识解及其演变机制」『语言学论丛』(59), 314-340
 朴珉娥・袁毓林 (2015) 「汉韩“白”类词的语义、语法和语用特征对比研究」『外语教学与研究』47 (4), 495-508+639
 袁毓林 (2014) 「概念驱动和句法制导的语句构成和意义识解 - 以“白、白白(地)”句的语义解释为例 - 」『中国语文』(362), 402-417+479

- 宋偉華 (2011) 「汉语副词“白”的语法化」『韶关学院学报·社会科学』32 (5), 65-68
- 劉焯 (2011) 「预设否定副词“白”和“瞎”的主观性语义分析」『浙江海洋学院学报』28 (2), 75-88
- 劉焯 (2009) 『预设否定副词“白”和“瞎”的比较研究』修士論文, 北京言語大学
- 崔溶 (2015) 『基于语料库的“白”的语法化过程考察』修士論文, 山東大学
- 張慶梅 (2020) 『预设否定副词“白”和“空”“干”的比较研究』修士論文, 浙江工業大学

【コーパス】

- 『日中对訳コーパス』(第一版)
- 北京大学『CCL コーパス』(ネット版)
- 北京言語大学『BCC コーパス』

(郭麗、東北大学大学院国際文化研究科言語科学研究講座)